

松江市

南北軸の広域観光
と産業交流

出雲市

観光基盤の充実と製
造業の拠点性強化

雲南市

農業の6次産業化と
製造業の強化

奥出雲町

エゴマ等を活かした
ヘルスツーリズム

飯南町

交流拠点の強化と
自転車ツーリズム



計画中の神原企業団地(仮称)



「中国やまなみ街道」全通後の波及効果について ～自治体・道の駅におけるヒアリング調査結果～ (詳細版)

平成28年3月
中国経済連合会

庄原市

道の駅が中山間地
の農業活性化を牽引

三次市

観光拠点の強化と
物流優位性の発揮

世羅町

道の駅が産直市と観
光農園へ客を誘導

尾道市

道の駅をリニューアル、
しまなみ観光とも連携



目 次

1. はじめに（開通に伴う交通状況の変化）

2. ヒアリング概要

3. 沿線地域（自治体・商工会議所）

4. 沿線地域（道の駅）

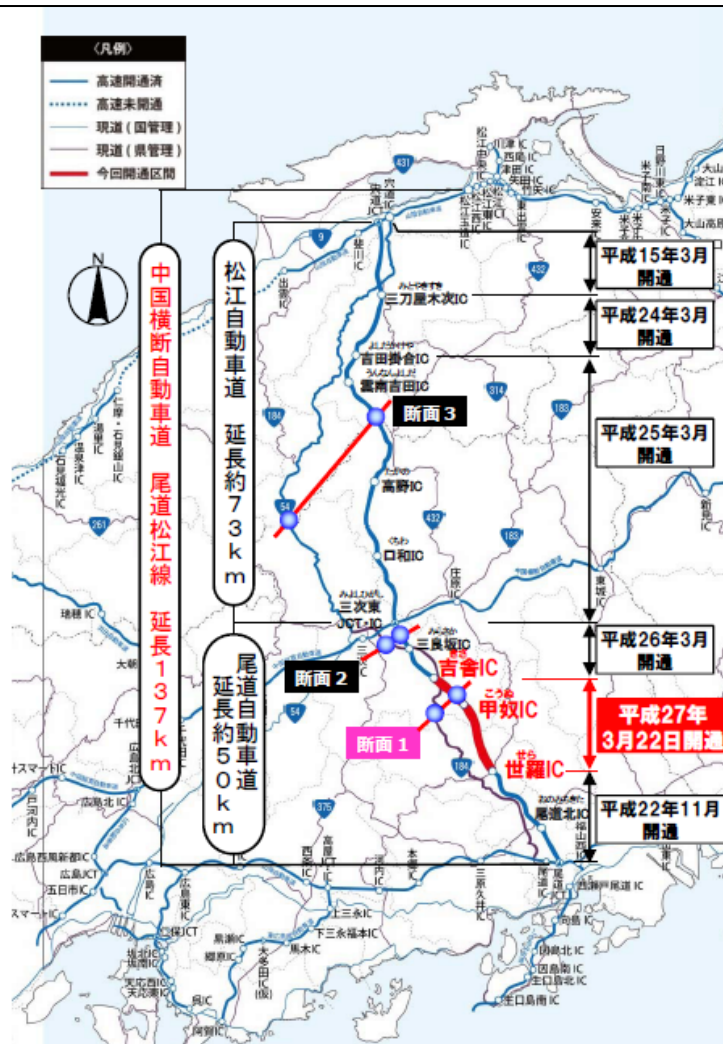
5. 今後の展開

6. 広域観光の創出

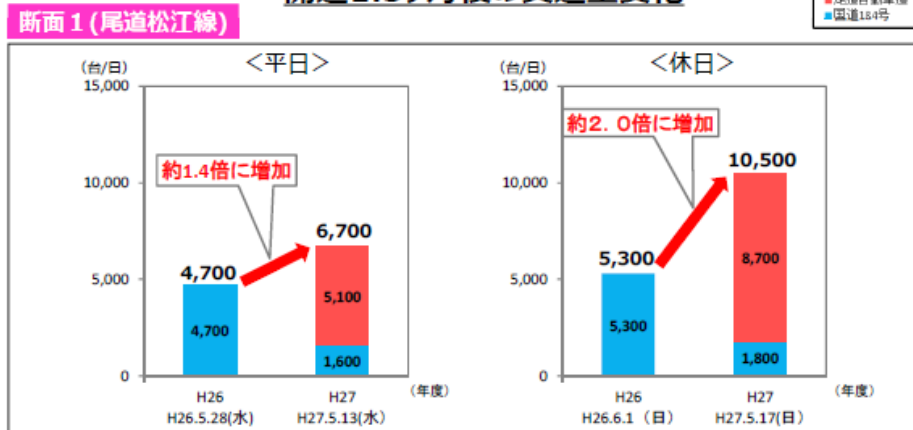
1. はじめに(開通に伴う交通状況の変化)

中国やまなみ街道の全線開通に伴い、尾道道+R184の合計交通量は、平日が1.4倍、休日が2.0倍に拡大。松江道は平日・休日ともに1.1倍に拡大。

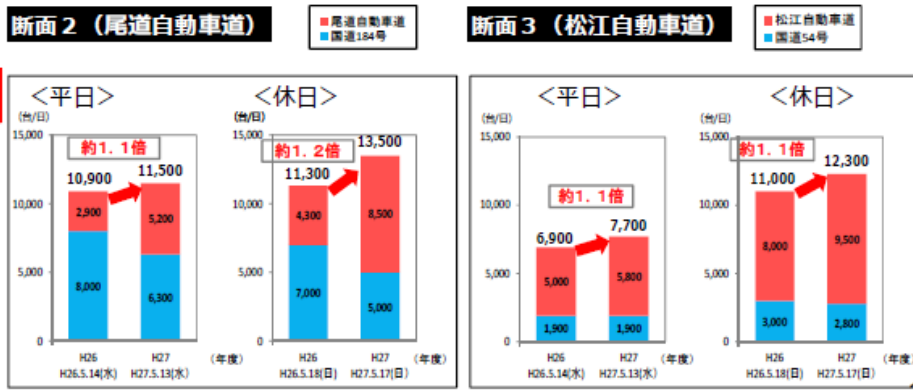
こうした**交流拡大をいかに地域振興につなげていくか**という課題意識に基づき調査を実施。



H27.3開通区間(世羅IC～吉舎IC間)の断面の
開通1.5ヶ月後の交通量変化



これまでの開通済み区間の断面の
開通1.5ヶ月後の交通量変化



(資料)国土交通省中国地方整備局記者発表資料(平成27年6月30日)

1. はじめに（開通に伴う交通状況の変化）

2. ヒアリング概要

3. 沿線地域（自治体・商工会議所）

4. 沿線地域（道の駅）

5. 今後の展開

6. 広域観光の創出

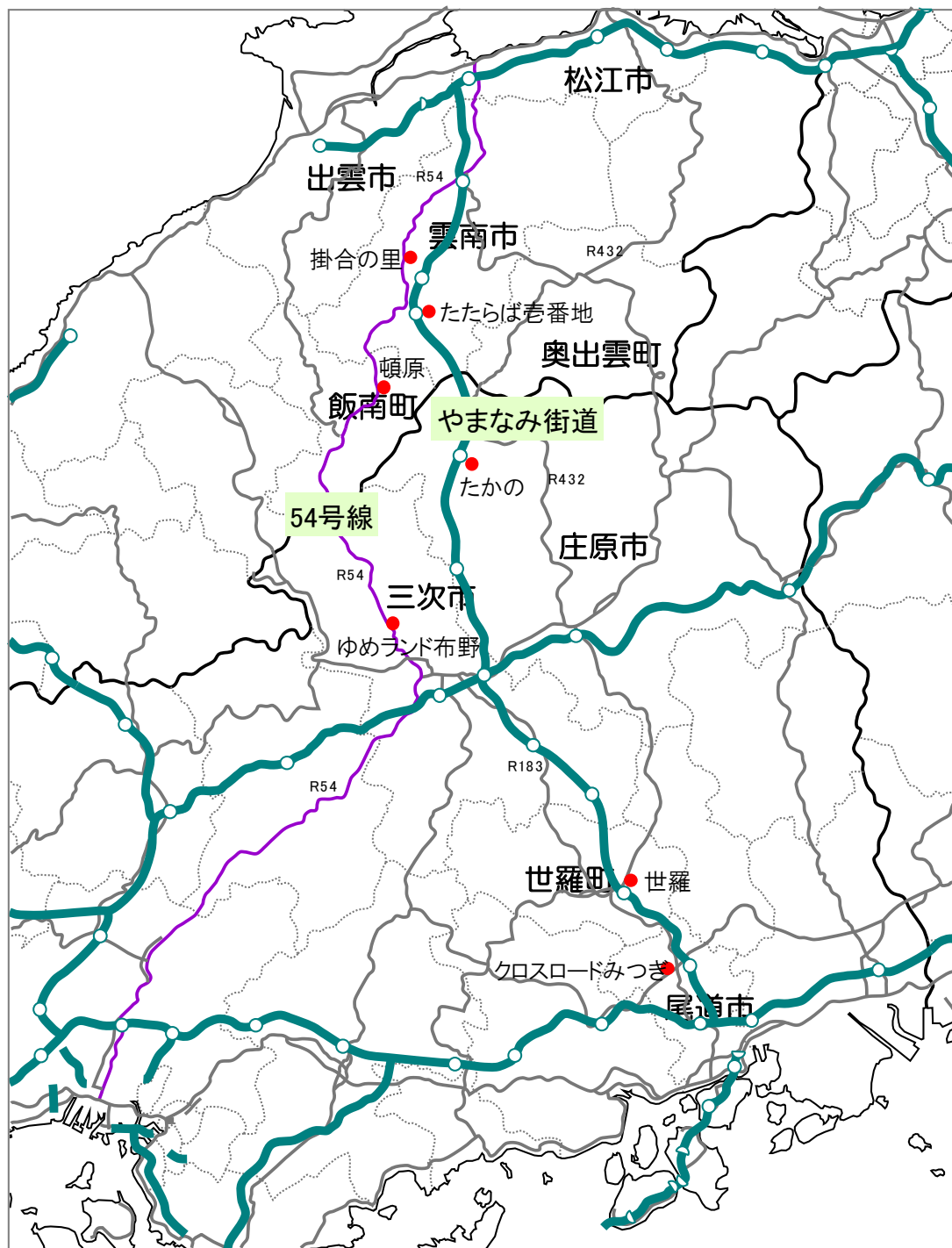
2. ヒアリング概要

- 1 調査期間:平成27年10月～11月
- 2 調査方法:対面式によるヒアリング調査及び現地調査
- 3 調査対象:中国やまなみ街道沿線の自治体(9) 商工会議所(1) 道の駅(7)

調査対象一覧	<>は道の駅
松江市・松江市商工会議所	
出雲市	
雲南市	<たたらば壱番地、掛合の里>
奥出雲町	
飯南町	<頓原>
三次市	<ゆめらんど布野>
庄原市	<たかの>
尾道市	<クロスロードみつぎ>
世羅町	<世羅>

自治体・道の 駅の位置図

(注)調査対象とした道の駅を表示



1. はじめに（開通に伴う交通状況の変化）

2. ヒアリング概要

3. 沿線地域（自治体・商工会議所）

4. 沿線地域（道の駅）

5. 今後の展開

6. 広域観光の創出

3. 沿線地域（自治体・商工会議所）【とりまとめ】

1. やまなみ街道全通の影響

- ①備後、四国等から集客拡大、概ね1割増加
- 【観光】②広島空港から山陰方面のインバウンド客増加
- ③宿泊施設新設など観光投資（出雲市）
- 【産業】④新規企業立地、立地問合わせ増加（三次市等）
- 【農業】⑤加工への意識が向上し、加工産業が活性化、農業への企業・Iターン者等の新規参入（庄原市）

2. やまなみ街道全通に向けた取組

- ①四国、山陽への観光プロモーション（山陰）
- ②観光商業地の整備、宿泊強化補助制度等の観光基盤を整備（出雲市）
- ③着地型観光の取組（雲南市等）
- 【観光】④自転車ツーリズムを推進（飯南町等）
- ⑤道の駅整備、観光施設等を核とした観光投資による滞留拠点強化（三次市、尾道市、世羅町、飯南町等）
- ⑥農家民泊等のグリーンツーリズム（庄原市、世羅町等）
- 【産業】⑦山陰・備後間の産業交流は四国へ展開
- ⑧工業団地の整備推進（出雲市、雲南市）
- 【農業】⑨6次産業化による特産品開発、ブランド化（雲南市、庄原市等）

3. 今後の方向性

- 【観光】①南北軸での広域観光（日本海～瀬戸内海～四国）
- ②着地型観光、グリーンツーリズム等（雲南市、庄原市、奥出雲町等）
- 【産業】③企業誘致と雇用確保推進、新たな団地整備（出雲市、雲南市、三次市、尾道市等）
- ④山陰・山陽・四国との産業交流
- 【農業】⑤加工品開発とブランド化（雲南市、世羅町）
- ⑥道の駅経営と農業・加工品生産の連携（庄原市、尾道市）

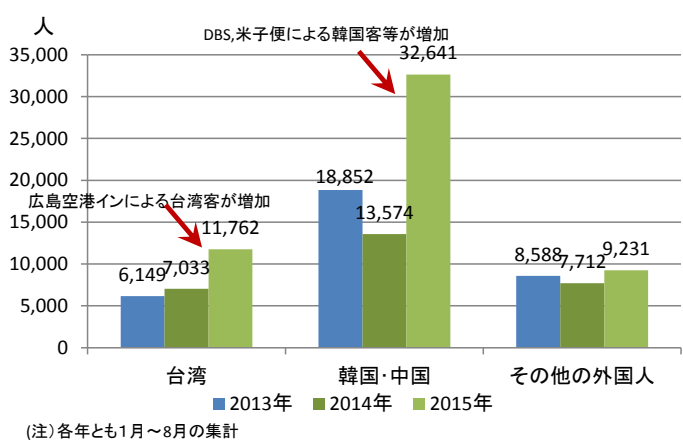
3. 沿線地域(自治体・商工会議所)【とりまとめ】

地 域	やまなみ街道全通の影響	やまなみ街道全通に向けた取組	今後の方向性
松江市	・広島空港への台湾客が増加 ・観光の広域周遊化が進展	・四国、山陽への観光プロモーション ・備後、四国との産業交流	・備後・四国と南北軸の広域観光 ・中海・宍道湖・大山圏域による観光、産業振興
出雲市	・四国等からの来訪により大遷宮の反動減を抑制 ・宿泊施設の新築が続く、宿泊機能が強化	・四国等への観光プロモーション ・広域圏で韓国・台湾に観光プロモーション ・宿泊強化補助制度の新設と神門通り整備 ・斐川中央工業団地造成(H27年度竣工予定)	・観光の滞留性強化に向けたまち歩き観光を強化 ・工業団地への企業誘致
雲南市	・備後、四国等からの観光客が増加	・6次産業化の取組による加工商品開発 ・広域連携で女性視点での着地型観光 ・神原工業団地・スマートインター整備の取組	・JRの豪華列車「瑞風」の菅谷たたら山内立寄りを捉え滞在型観光化 ・6次産業化の拠点施設整備
奥出雲町	・広島空港から松江・出雲に向かう外国人客の立寄りが増加	・広域連携で女性視点での着地型観光 ・エゴマを核としたヘルスツーリズムのモニターツアー	・全国有数の生産を誇るエゴマやそば、温泉等を活かしたヘルスツーリズム ・廃校等を活用したIT企業誘致
飯南町	・松江道開通により産直市は4割減少したが、3割減までに回復	・しめ縄ライドや道路標示等により自転車ツーリズムを推進 ・道の駅と産直市を核とした滞留拠点を整備	・観光協会の法人化により観光振興を本格化 ・道の駅でのレンタサイクル整備やガイド付きサイクリング等自転車観光
庄原市	・道の駅は松江道開通時を上回る売上げで推移 ・農業への企業やIT企業の参入 ・農業の所得と雇用が拡大	・6次産業化の取組による加工商品開発 ・体験型教育旅行受入等グリーンツーリズムを推進	・第三セクターによる農業の企業経営化や加工部門への参入 ・旅行業免許を有する観光協会と連携し着地型観光を推進
三次市	・新規企業の立地、企業立地の問い合わせが増加 ・観光バスの立ち寄り増加	・トレッタみよし整備、東酒屋に観光拠点構築 ・岡山等への観光プロモーション ・特産品のブランド化	・三次工業団地Ⅲ期への企業誘致
世羅町	・産直市が1～2割増加、花観光農園の一部は過去最高の集客	・道の駅世羅開設、売上げは想定の倍で推移 ・山陰・瀬戸内間の縦軸で観光プロモーション	・世羅オリジナルの加工品開発 ・農家民宿等のアグリツーリズム
尾道市	・観光客は概ね1割増加、宿泊施設の稼働率も上昇	・県がやまなみサイクリングルート整備を推進 ・道の駅クロスロードみつぎをリニューアル	・工業団地整備を検討 ・やまなみとしまなみを繋ぐ広域観光による訪日観光客誘致

松江市(1): 広島と連携したインバウンド振興や南北軸での広域観光に前向き

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・福山ナンバー、愛媛ナンバーの自動車が増加
 - ・首都圏の旅行会社から、広島空港やＪＲ広島駅からのレンタカープラン、尾道と連携した広域観光プラン等の商品構成の広がりが出たとの指摘
 - ・広島空港をゲートとした台湾客(山陰の温泉に滞在)の増加
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み
 - ・観光面では、四国や瀬戸内海側へのプロモーションを展開。(四国の市場は小さいが、新たな市場開拓と位置づけ)
 - ・製造業では、尾道・福山との産業交流で企業間取引は始まりかけている段階。今治との産業交流を開始。
 - ・開通を記念して、尾道・今治・松江をターゲットとした地域商品券を発行
- ◆今後の方向性
 - ・尾道市、今治市等と意見交換しており、南北軸の広域観光を検討中
 - ・インバウンドターゲットは台湾(広島空港をゲート)、韓国(米子空港(3便/週)、ＤＢＳフェリー)、フランス(広島と連携してやまなみ活用)、タイ(関空)

松江市における外国人入込込み客数の伸び



ツアー名	行程	出発日	旅行会社
<レンタカー付き／広島周遊フリープラン>羽田空港発2日間	往路 羽田空港－広島空港 復路 広島空港－羽田空港 宿泊は中国四国各地のホテルより選択	毎日	J-TRIP
寝台特急「サンライズ出雲」出雲大社昇殿祈禱と安芸の宮島4日間	東京駅－出雲市駅－出雲大社－松江城－玉造温泉(泊)－足立美術館－尾道(千光寺公園・文学のこみち)－宮島口(泊)－宮島－広島駅－東京駅	‘16年1月11日・18日・24日、2月3日・23日、3月9日	クラブツーリズム



松江市商工会議所：備後、四国との観光・産業交流等や広域圏による活性化の取り組みを推進

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・日帰り型になり宿泊は下がると危惧していたが、広域的に周遊する形となったり、松江城国宝化のプラス要因もあり、減少はない
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み
 - ・尾道市、福山市との産業交流を深める。松山、今治、新居浜等四国との産業交流も開始する予定。
 - ・松江市、尾道市、今治市、松山市の商工会議所会頭による交流を開始。産業、観光交流の面で具体化を検討中。プレミアム商品券を3市向けに販売
- ◆今後の方向性
 - ・広島空港に接続するフライトロードの整備を強く要望。山陰道、境港出雲道路、米子北道路による8の字ルートに要望
 - ・中海・宍道湖・大山圏域で広域版の総合戦略を作成し、インバウンドなどに取り組む

圏域のものづくり
関連企業・大学など
約100社の
優れた商品・技術が
大集合!!



中海・宍道湖・大山圏域
ものづくり連携事業

ビジネスマッチング 商談・展示会2015in出雲

ビジネスのご縁を結ぶ山陰最大級のB to Bイベント

■と き 平成27年10月29日(木)
10:00~16:00

■ところ 出雲ドーム (島根県出雲市矢野町999)

■入 場 無料 (交流会への参加は有料)

鳥取・島根 中海・宍道湖・大山圏域市長会 地方版総合戦略

位置づけとねらい

県境を越えた広域連携

- 日本海側を代表する拠点
- 北東アジアのゲートウェイ
- 山陰地方の人口流出のダム効果

基本目標

圏域人口 60 万人の維持

- 産業集積による仕事・雇用の創出
- 地域資源（ヒト・モノ）の発掘と磨き上げ、そして国内外への発信
- 世界に誇れる歴史・文化のさらなる活用

目標の実現に向けた施策

お得に水の都松江に足を運んでみませんか。

【販売・利用有効期間共】平成27年8月1日(土)~11月30日(月)

島根県松江市では、尾道、松山、今治に在住し、松江市に旅行で訪れる方のために、平成27年8月1日(土)から「水の都 まつえプレミアム商品券」を発行します。購入額1万円です13,000円分のお買い物ができる商品券です。

Q1 商品券は、どんなもの？

- 販売対象者：尾道市、松山市、今治市に在住の方
- 購入額：10,000円(1冊あたり)@1,000円券×13枚綴り
- ※お一人あたり5冊まで、払い戻しはできません。
- 販売期間：平成27年8月1日(土)~11月30日(月)
- 利用有効期間：平成27年8月1日(土)~11月30日(月)
- ※販売期間と同様



水の都 まつえプレミアム商品券
¥1,000
有効期間 平成27年8月1日(土)~平成27年11月30日(月)
※有効期間中に各店舗で販売予定です。

Q2 商品券の購入は、どうすればよいの？

尾道、松山、今治の取扱登録旅行代理店にて購入していただけます。
(販売店舗一覧については、ホームページをご参照ください)
店頭で備え付けの「商品券購入申込書」に必要事項をご記入の上、提出していただき、現金でお支払いの上、ご購入ください。

【主な販売箇所】

- 尾道市／新中国トラベル尾道支店 TEL.0848-23-3355
尾道海運旅行センター TEL.0848-23-2900
- 今治市／新全観トラベルネットワーク今治支店 TEL.0898-33-1191
松せとうち観光社今治本社 TEL.0898-33-1000
- 松山市／東武トップツアーズ(松山)支店 TEL.089-941-9231
松愛媛新聞旅行 TEL.089-933-3564
はと観光(松山)本社 TEL.089-946-4181
御伊予旅トラベル本社営業所 TEL.089-941-1744
近畿日本ツーリスト中国四国 松山支店 TEL.089-941-4533 (ほか)

※営業時間、休業日は各店舗によって異なります。※平成27年7月1日現在。随時更新あり。

Q3 商品券は、どこで使えるの？

宿泊、飲食、おみやげなどに使えます。松江市内の「まつえプレミアム商品券」加盟店にてご利用できます。利用可能な店舗については、ホームページをご覧ください。
旅館・ホテル等のご予約につきましては、ホームページで登録店であることを確認の上、ご利用ください。

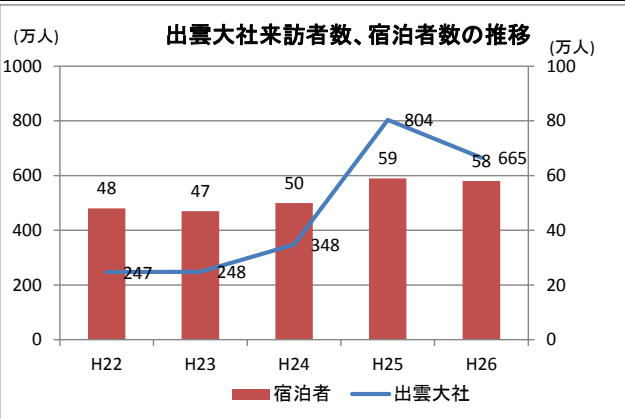
【ステッカー表示】



【加盟店】 10

出雲市(2): 観光基盤の整備が進展、ものづくりの集積を活かしてさらに拠点性を強化

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・ 出雲大社平成の大遷宮翌年の減少からの更なる減少が抑制される傾向であり四国等からの新たな来訪が影響。台湾客・韓国客の宿泊者が増加
 - ・ 宿泊強化補助制度をH26年度に創設し、それを活用したホテルが開業、出雲大社前にも新たなホテルが着工するなど、宿泊機能が強化
(注)宿泊強化補助は、建物部分の固定資産税の3年分を市が補助する制度
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み
 - ・ 松山、高知など四国への観光プロモーションを展開
 - ・ 中海・宍道湖・大山圏域市長会により、水木しげるロード 足立美術館 松江城 出雲大社等を周遊させるプロモーションを韓国・台湾等に展開
 - ・ 新たな観光資源として、自転車ツーリズムを位置づけ、イベントを実施
 - ・ 神門通り2期工事を推進
 - ・ 産業面では斐川中央工業団地を造成(約5ha、H27年度竣工予定)。製造業を中心に流通業も含め問い合わせは多い。村田製作所も増設
- ◆今後の方向性
 - ・ 神門通り整備に続き、旧大社駅を核とした情報発信を行うことで、まち歩き観光を強化



宿泊強化補助制度に基づき立地したホテル



(仮称)
出雲斐川中央工業団地
～豊かな自然環境と抜群の交通アクセス～

斐伊川
出雲村田製作所
出雲斐川中央工業団地
斐川ターミナル
島根自動車
山陰自動車(斐川C)
韓国領事館
国道9号線

**平成27年7月
A区画分譲開始**

出雲空港から15分、山陰自動車道斐川ICから3分の交通アクセスに優れた工業団地です。

雲南市(3): 農業の6次産業化、製造業の集積強化、滞在型観光、移住等総合的に取り組む

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・観光客数は1割～3割程度増加、福山や四国ナンバーの車が増加
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み
 - ・平成20年度より6次産業化の取組により地元生産者等と連携し、スパイス、スイーツ等の商品開発を行い、たたらばき番地で販売
 - ・奥出雲女子旅つくる委員会(奥出雲町、飯南町と連携)で女性視点での情報発信、着地型旅行を企画
 - ・企業誘致のための神原企業団地について詳細設計の段階。加茂バスストップにスマートインターチェンジを造る予定
- ◆国道54号活性化対策としてサイクリングロード事業を実施
 - ・国がブルーライン(路面標示)の試行設置。道の駅グルメライド、しめ縄ライド等のイベントを実施。イベント参加者による口コミによる情報発信を期待
- ◆移住対策
 - ・定住推進員・定住企画員制度、空き家活用、地域との協働による定住推進、定住施策を推進中。空き家バンクの成約は10年間で275件、定住者は705名(H27.3末現在)
- ◆今後の方向性
 - ・JR西日本の豪華列車「瑞風」の立ち寄り場所として、菅谷たたら山内が決定。観光客増加を見込み、たたら、温泉、トロッコ列車等を活用して滞在型観光地を追求
 - ・市内企業の有する食品加工技術と業務用厨房機器を最大限活用した6次産業化の拠点施設を平成30年度を目途に整備

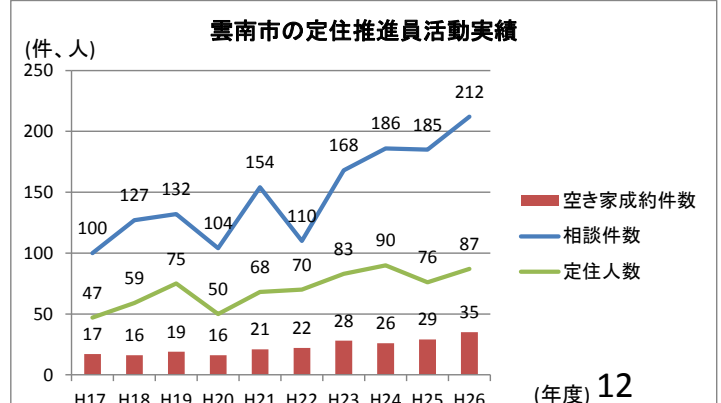
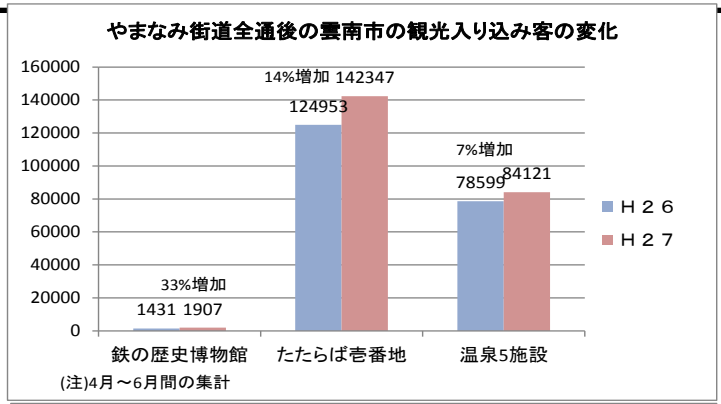


菅谷たたら高殿

全国で唯一残るたたら製鉄遺構で、国の有形民俗文化財に指定
平成26年11月に保存修理が終了し、一般公開されている。
周囲は、たたら製鉄に従事した人たちの居住地(山内)の町並みが今に残る



団地概要
H30年度分譲開始予定、分譲面積約3ha、雲南市【周辺の主な立地企業】島根三洋電機(株)、ホシザキ電機(株)等



奥出雲町(4): 出雲に向かう外国人客の立寄り増加。エゴマを活かした6次産業化・観光に可能性

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・広島空港から松江・出雲観光に向かう台湾客等の可部屋集成館への立寄りが増加。ネット情報によるもので、11月には400名程度が来訪
 - ・油圧ショベル等のウエイト製造で全国トップクラスの製鉄会社が、広島方面への製品輸送でやまなみ街道を利用
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み
 - ・雲南市、飯南町と連携した奥出雲女子旅つくる会による着地型観光の取組。ターゲットは広島。広域でサイクリングイベントの実施
 - ・安来市と連携してR432ルートを軸とした観光の情報発信。R432は交通量が増加中
 - ・エゴマのレシピを開発し、エゴマを核としたヘルスツーリズムのモニターツアーを実施。広島向けで応募者80人の全てが女性
- ◆今後の方向性
 - ・地元の資源である「温泉」「医療系専門学校」「エゴマ」「そば」をヘルシーというテーマで関連付け、ヘルスツーリズムとして活かす戦略
 - ・エゴマの生産面積は31haで町としては日本一。農業参入した建設業者を中心に生産しており、町内の事業者の連携によりヘルスツーリズムを振興
 - ・古民家や廃校を活用したIT企業の誘致にむけて松江市の企業によるモニター調査に取り組む



可部屋集成館
たたら御三家の一つである櫻井家の美術工芸品、歴史資料を展示した資料館



奥出雲ヘルシーランチ! 美人の湯の温泉入浴!

日帰り

奥出雲モニターツアー

いいことづくめ! エゴマのパワー

「α-リノレン酸」など身体にいい成分を含むしそ科植物「えごま」は、縄文時代から作られてきたという伝統の作物。ツアーではエゴマのヘルシーライン地やエゴマ畑見学をお楽しみいただけます

※本ツアーは奥出雲地区の観光振興のためのモニターツアーとなります。ツアー終了後、A4用紙1枚程度のアンケートにてご感想をご提出いただけます。その謝礼として粗品を差し上げます

各地＝三井野原(エゴマ畑見学)＝古民家暖簾(奥出雲そばとエゴマを使用したヘルシーランチ)＝雲州そば伝説産業会館＝鬼の舌震(深谷を散策)＝佐白温泉(美人の湯で温泉入浴)＝各地(19:15～20:00)

白温泉で美人の湯をご満喫

旅行代金 おひとり **4,990円**

コース番号 **A5884-707**

広島駅(8:00発) 広島県庁(8:20発) 中筋(8:45発)

11月 14・15日

日帰り

各回 1名 25名 随時

飯南町(5):R54の交通量減を逆手にとり自転車ツーリズムを志向。広域アクセスは向上と評価

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・ 松江道開通以降は、交通量に大きな変化は無し。道の駅頓原に併設する産直市では松江道開通により4割減少したが、3割減少まで回復
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み(R54沿線活性化)
 - ・ 自転車観光を推進中で、今後自転車の周遊ルートに看板や道路標示を整備。出雲大社を繋いだしめ縄ライド等を実施
 - ・ 大しめ縄創作館整備と道の駅頓原の背後の緑地公園を充実させたことで、道の駅と産直市を核とした滞留拠点を形成
 - ・ 琴引スキー場は家族をターゲットとし四国方面へも営業を展開。広域からのアクセスは向上していると評価
- ◆今後の方向性
 - ・ 観光協会をH27年度に立ち上げ。スキー場、温泉、りんご園、ばたん園、森林セラピーなどを繋いだ観光振興を本格化させる
 - ・ 道の駅を拠点にレンタサイクルを整備、ガイド付きサイクリングを通じて地元の人がおもてなしをする。自転車はプラスの要素と捉える



国道54号を軸としたサイクリングロード整備基本計画(島根県作成)

飯南町内では道の駅頓原、道の駅赤来高原を拠点としたルートが設定されている



庄原市(6):道の駅の販売が農業活性化を牽引。企業参入等で農業の成長産業化を展望

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・道の駅は初年度を上回る売上げで推移。備後方面からの来訪増加と道の駅での建物外での販売開始によるもの
 - ・リンゴや大根など品質の高い高原野菜・果樹を中心とする農産物の販売増加、加工品のブランド化への展開が図られ、所得と雇用が拡大
 - ・3企業が高野町の県営開発農地で大規模キャベツ栽培(約30ha)に参入。更に別企業が約15haの農場経営を開始
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み
 - ・平成20年度より農産物の6次産業化による高野逸品開発に取り組み105品目を選定(H26年度まで)
 - ・体験型教育旅行の受入(受入農家30戸、年間100名程度)と高野体験(農業体験)というグリーンツーリズムを推進
- ◆今後の方向性
 - ・品不足となるリンゴ等の生産体制を強化するため第三セクター(株)緑の村等による農業の企業経営化や加工部門強化の取組を検討
 - ・通販やデパート販売等によるブランド品の販路拡大に取り組む
 - ・旅行業免許を有する庄原市観光協会と地域が連携し、「高野体験」などを活かした着地型観光商品の推進を検討

高野での田舎体験プログラム

1 リンゴ狩り体験と リンゴジャム作り体験



高野の逸品開発



新たに農場経営に参入する企業 (中電工ワールドファーム)

農業を成長産業として位置づけ、庄原市高野では大規模な野菜栽培に参入。

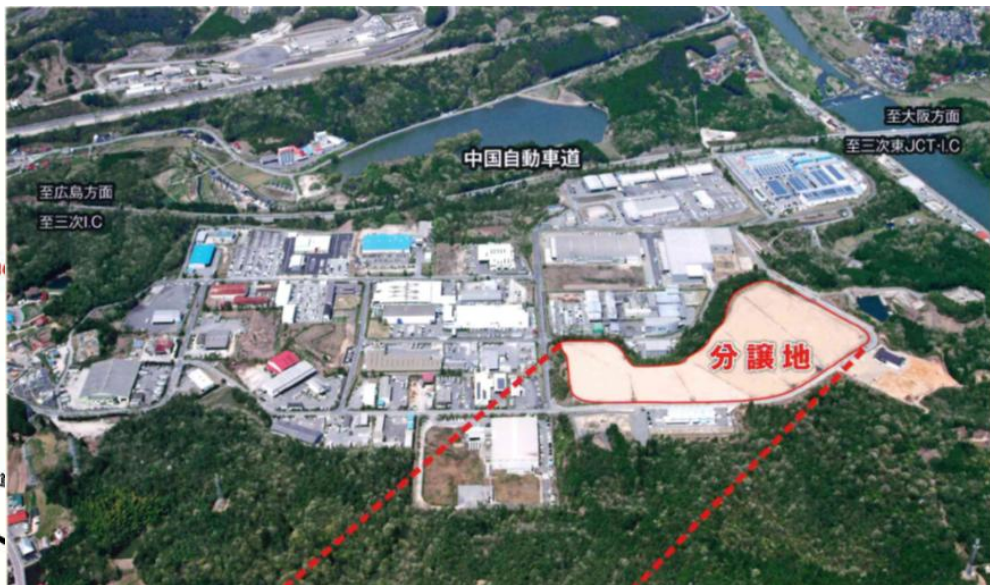
【合弁会社の概要】(予定)

会 社 名	株式会社 中電工ワールドファーム
所 在 地	広島市中区小網町6番12号((株)中電工内)
事 業 内 容	野菜の生産・加工販売およびそれに附帯する事業
設 立	平成27年11月
出 資 会 社 (出 資 額)	中電工 (5.6億円), ワールドファーム (0.6億円)
出 資 総 額	6.2億円 (資本金3.1億円 資本準備金3.1億円)

三次市(7): 観光交流拠点の機能強化を実現、物流機能の立地など産業面の機能強化を推進

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・企業立地の問い合わせが大きく増加。浜田市の製造業者が物流センターを新設
 - ・旅行会社向けの団体旅行の補助が好調、観光バスの立ち寄り増加。ゴールデンウィークは観光客が3割増加
- ◆やまなみ街道全通に向けた取り組み
 - ・農産物等販売拠点としてトレッタみよしを整備し、ワイナリー・美術館等との連携で東酒屋地区に観光拠点を構築。個人客中心で山陽方面の来客が多い
 - ・松江道開通時の山陰に続き、尾道道開通に併せ岡山方面に観光プロモーションを展開。
 - ・観光宿泊・スポーツ合宿助成事業として1000円のクーポン券を発行。トレッタみよしで販売する特産品のブランド化に取り組む
- ◆今後の方向性
 - ・三次工業団地Ⅲ期分への企業誘致。製造業や物流施設の立地を期待

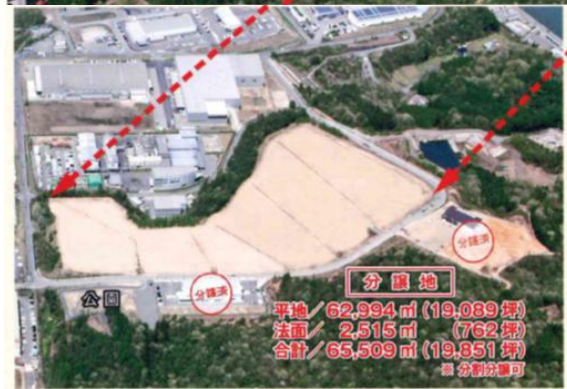
東酒屋地区に観光機能が集積



トレッタみよし



みよしあそびの王国



三次工業団地第Ⅲ期
約6.6haの規模

世羅町(8): 道の駅を起点とし町内に来訪者が増加。オリジナルな加工品開発と農家民宿を推進

◆やまなみ街道全通の影響

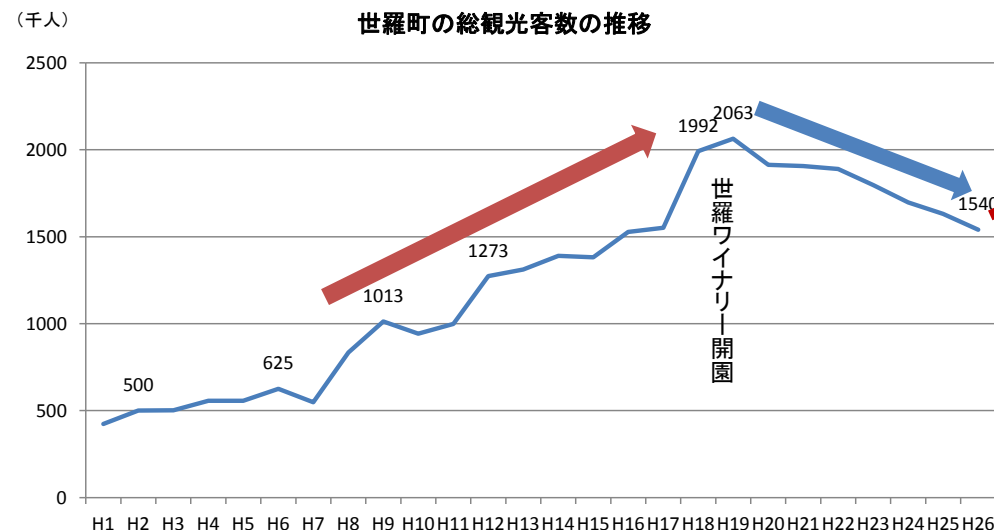
- ・産直市が1割～2割増加、花観光農園の一部は過去最高の集客
- ・観光客はこの10年減少傾向にあったが、全通以降は世羅町内の観光客は増えている

◆やまなみ街道全通に向けた取組

- ・道の駅世羅の整備を行い、売上げは想定の倍。地元商店の食品加工（おもち・お弁当等）会社などにも波及効果が出ている
- ・山陰、瀬戸内を結んだ縦軸で観光プロモーションを展開。

◆今後の方向性

- ・道の駅の販売が好調であり、世羅オリジナルの加工品開発を推進
- ・6次産業ネットワークの事務局である夢高原市場協同組合により、農家民宿等のアグリツーリズムを推進



町内に分散配置されている産直市



甲山いきいき村
せら高原の恵みグリーンアスパラは茹でる、炒める、焼く、揚げると、どんな料理にも合います。

■世羅町小笠原341-1 ☎0847-25-0090
■営業時間8:00～17:00（定休日なし）



山の駅(世羅大豊農園)
当農園で採れた梨を使った、風味豊かなオリジナルの梨ジャムです。

■世羅町本郷804 ☎0847-27-0231
■営業時間8:00～17:00



ビルネ・ラーデン(世羅水国農園)
とってもあまいもぎたて木成りいちご、食べ放題!

■世羅町本郷365-24 ☎0847-25-0174
■営業時間8:00～17:00
■夏期は18:00まで



かめりあ
昭和の頃、おばあちゃんが作ってくれた手づくりのかりんとう。水分を入れず油でゆっくゆっく揚げた素朴な味わい。

■世羅町栗川451-2 ☎0847-37-1114
■営業時間 夏7:30～17:00 冬10:00～15:00



四季園にしおた
目で楽しみ、香りも楽しめる薫製卵。じっくりコトコト煮込み、いぶした絶品です! サラダ、おつまみ、おやつに。

■世羅町重永934 ☎0847-27-0777
■営業時間8:00～17:00



大見ふれあい市
ワッショイ! ワッショイ! 昔なつかし押し寿司です。お酢のきいた花飾りもきれいな押し寿司をどうぞ。

■世羅町安田1816-2 ☎0847-29-0545
■営業時間8:00～17:00

尾道市(9): 松江との交流事業やしまなみ海道と繋いだサイクリング振興など南北交流を推進。

◆やまなみ街道全通の影響

- ・観光客は概ね1割増加。U2の宿泊施設の稼働率も上昇

U2

自転車ごと宿泊可能なサイクリスト専用ホテルを主軸に、レストラン、セレクトショップやギャラリー、イベントスペースなどを擁した複合施設

◆やまなみ街道全通に向けた取組

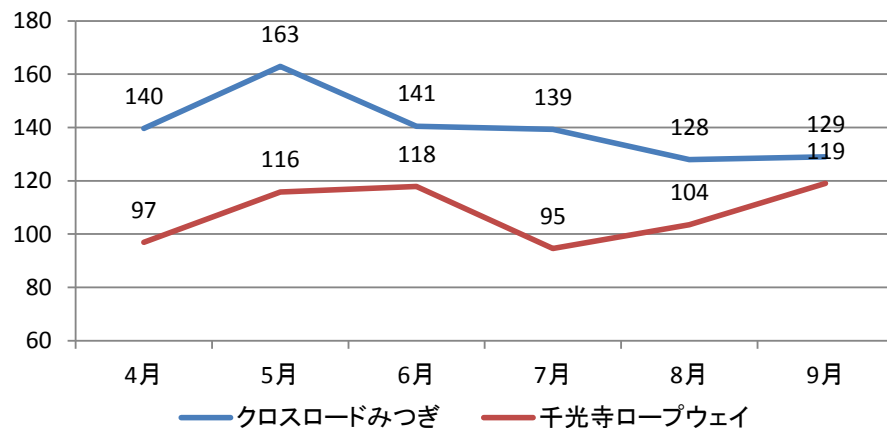
- ・広島県がやまなみサイクリングルートの整備を推進(ルート設定、看板設置、ブルーライン整備も検討)
- ・尾道市内はハイレベルなコースであり、サイクルオアシスというおもてなし体制を推進中
- ・やまなみ沿線でバイクユーザー限定のグルメクーポン券を配布。しまなみ海道と連携したスタンプラリーも実施
- ・道の駅クロスロードみつぎをリニューアル。尾道観光協会では松江と連携した観光交流事業を実施

◆今後の取組

- ・恵まれた拠点性を活かし、県と連携して工業団地整備を検討
- ・やまなみ街道としまなみ海道をつなぐ観光ルート形成による訪日観光客誘致事業を予定(松江市、尾道市、今治市)

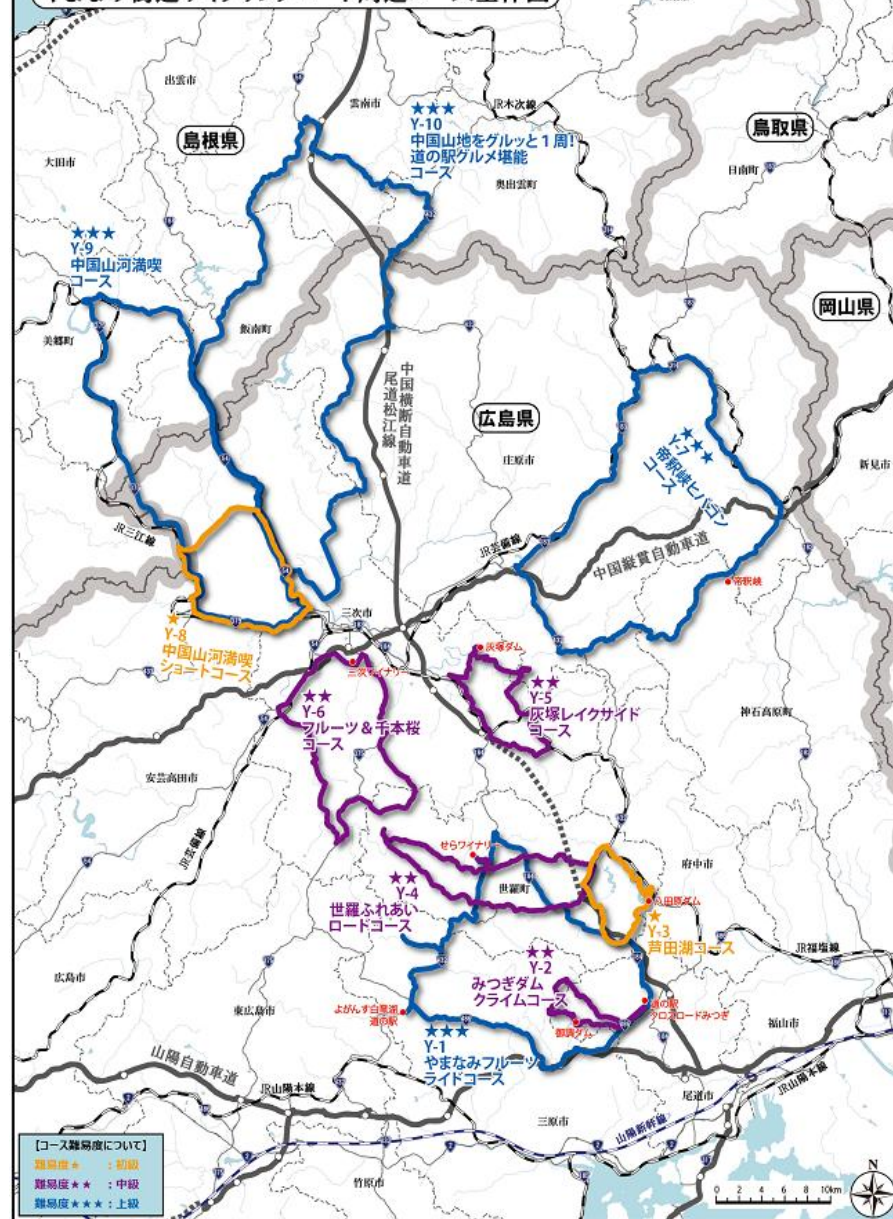
尾道市の来訪者数(平成27年度の対前年同月比)

(前年同月=100)



(資料)尾道市観光課調べ

やまなみ街道サイクリングロード周遊コース全体図



1. はじめに（開通に伴う交通状況の変化）

2. ヒアリング概要

3. 沿線地域（自治体・商工会議所）

4. 沿線地域（道の駅）

5. 今後の展開

6. 広域観光の創出

4. 沿線地域(道の駅)【とりまとめ】

1. 地域振興の拠点化に向けた方向性

- ①特産品の開発、ブランド化がリピーターを増やし道の駅を目的地化(たかの等)
- ②交流拠点の顔と地域のコミュニティ拠点の2つの顔で地域と共存
(たかの、世羅、頓原、布野等)
- ③産直市との連携や地元飲食店と連携した新たなサービス開発(掛合の里、布野、世羅等)
- ④地域資源を活かした着地型観光の推進
(たたらば壱番地等)
- ⑤加工品生産、農業経営への取組により農業の成長産業化を牽引(たかの、御調)

3. 運営体制のポイント

- ①産直市、土産物販売、飲食、観光情報発信、トイレ管理等の一元的経営が重要
(商品開発、プロモーション、イベント企画等)
(たかの、世羅、御調、布野等)

2. 国道54号等の交通量減少への対応

- ①目的地化、滞留性強化を目指した取組
 - ・地産地消型バイキング(布野)
 - ・道の駅に隣接して観光施設、緑地広場整備(頓原)
- ②広域的な観光連携により人の流れを生み出す
 - ・掛合の里→須佐神社→出雲大社
 - ・三次観光→ゆめらんど布野→君田温泉
 - ・三次IC→ゆめらんど布野→石見銀山、三瓶山等
- ③地元向けの飲食・福祉サービス、イベント実施など地域振興の役割を担う
 - ・地元向けイベント(たかの、世羅、頓原、布野)
 - ・宅配弁当サービスを予定(布野)
- ④新たな観光要素として、バイク、自転車など2輪車ツーリズムを推進(布野等)

4. 沿線地域(道の駅)【概要】

		やまなみ街道全通の影響	やまなみ街道全通に向けた取組	今後の方向性
やま なみ 街道 沿線	たたらば 壱番地	・来訪者は15%増、売上げは1割増 ・たたら製鉄関連施設の入り込みも増加	・トイレを増設 ・地元食材等を活かした特産品の開発・販売 ・共同運営者の1社が着地型観光	・4社による共同運営を踏まえ、コンセプトや発展戦略の確立が課題 ・たたら資源をブランド化し観光面での自立化
	たかの	・売上げは松江道開通時よりも1割増、前年度より3割増で推移 ・岡山、四国方面や外国人が増加	・対面による軒下やテント販売 ・地域コミュニティ向けのイベントの開催	・旅行業免許を取得する組織と連携し、農家民泊や着地型観光を推進 ・道の駅の指定管理者として農業生産や農産物加工にも関与
	世羅	・町内の産直市は前年比で2割増加、花観光農園イベントの一部は過去最高の集客	・地域の情報発信基地として整備 ・出荷者は地域の事業者のみとするなど地元にもこだわる ・観光コンシェルジェによる対面案内を重視	・他の産直市とネットワークする仕組み ・地域の飲食店と連携して団体バス向けのお弁当受発注の仕組み ・地元向けのイベント開催
	クロス ロードみ つぎ	・観光バスの立ち寄りが増加 ・リニューアル効果と全通効果で売上げは増加	・レストランと野菜市を拡張、駐車場、トイレ増設等のリニューアル ・目的地化を目指しブランド力のあるレストランを誘致	・リピーター確保に向け加工場の整備が課題
国道 54号 沿線	掛合の里	・松江道開通により3割減少するが1割回復 ・須佐神社、出雲大社に向かう観光バスが立ち寄り	・食材を産直市から仕入れ、朝とれ食材をキャッチフレーズに、地元客を意識した飲食メニューを開発	・地元客向けの飲食、仕出し、宴会ニーズに対応 ・複数の事業主体と連携した道の駅の運営
	頓原	・松江道開通により売店部門が大幅減少したが、1割強の回復	・地域や道の駅の他の運営主体と連携して緑地整備、イベント開催 ・しめ縄館を整備し交流拠点性強化	・地元客に目を向けた集客イベント ・目的地化による外部からの集客
	ゆめラン ド布野	・福山・四国方面など約1割増加 ・三次、君田温泉を周遊するルート形成 ・石見銀山、三瓶山方面の観光バスの立ち寄り	・目的地化を目指し地産地消型バイクを開始 ・バイク利用者向けのイベントを開催、屋根付きバイク駐車場を整備	・レンタサイクルを設置し自転車観光を推進 ・地域向けのサービスとして宅配サービスの実施

道の駅たたらば壱番地:6次産業化による地元食材を活用したメニュー・商品開発を推進

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・来訪者は15%増、売上げが1割増加。福山ナンバー車が増加している。たたら製鉄関連施設（鉄の歴史村博物館、菅谷たたら山内等）も増加
- ◆道の駅としての取り組み
 - ・産直市や店舗での地元食材を活用したメニュー・商品の販売により地域経済の活性化に寄与
 - ・指定管理を受ける（株）吉田ふるさと村が、地域の農産物の加工業も手がけ、道の駅での販売につなげるなど6次産業化の取組を推進
 - （注）（株）吉田ふるさと村は、地域の活性化を目的に住民と行政の共同出資で設立された企業で、地元の農産物を主原料に添加物を加えない安全な食品加工販売を中心に、農業・水道工事・旅行業・市民バスの運転・飲食店等様々な事業を展開し、地域振興に寄与している。
 - ・道の駅は4社による共同運営であり、その中の1社である（株）吉田ふるさと村による着地型観光の取り組みが特徴的である
 - …行政補助のあるモニターツアーの他、マイカーツアー、鉄の道紀行などの補助無しの着地型観光を推進。広島方面への情報発信が課題
 - …たたら製鉄を本格的に体験する近代たたら操業ツアー（4泊5日で83,800円）を実施、製鉄業からの参加もあり参加者は増加している
 - ・道の駅としては、トイレを増設中(国の事業)で、ほぼ倍増される
 - ・道の駅の運営に関わる4社の連携により道の駅としてのコンセプトや発展戦略の確立が課題
- ◆今後の方向性
 - ・JRの豪華特急列車「瑞風」の菅谷たたらへのコース化を背景に、たたら資源をブランド化し、観光面での自立化を目指す

道の駅は4社により共同運営



独自企画した旅行商品

鐵の道紀行

～田部家秘蔵の名庭を特別公開～

平成27年
9月19日（土）・10月17日（土）・11月21日（土）

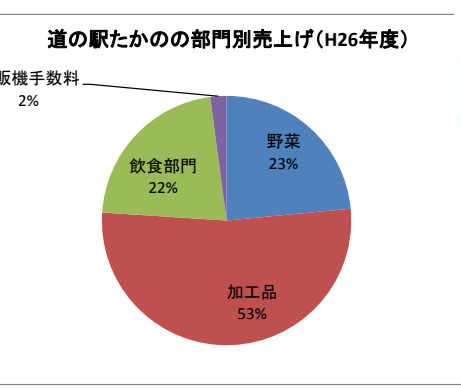
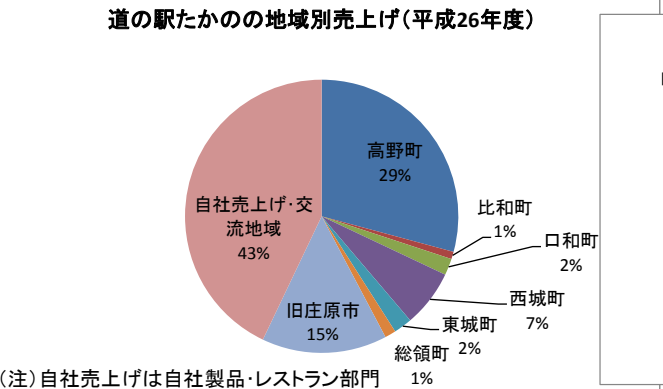
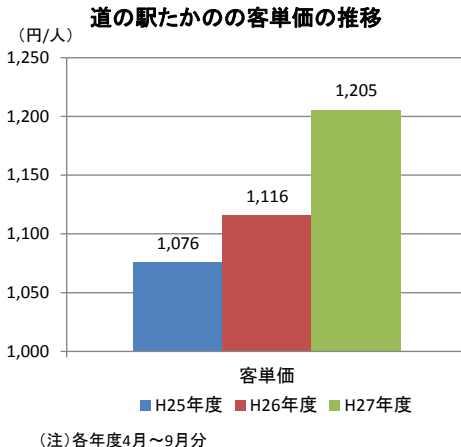
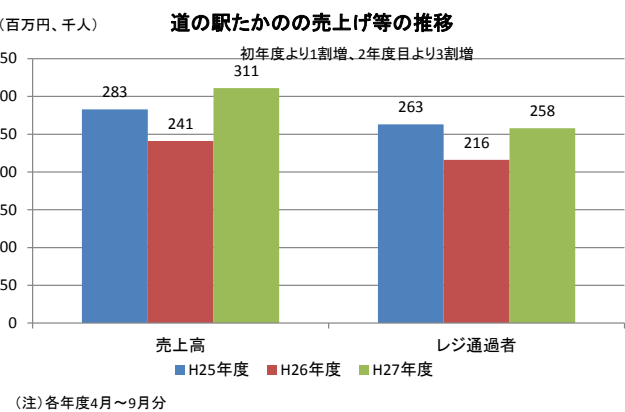
参加料金(税込)
お一人様…**9,800円**

開催場所 雲南市・奥出雲町
集合場所 JR松江駅 8:40発・出雲空港 9:10発・たたら壱番地 9:50発

料金内訳:昼食1回、貸切バス料金、施設入館料、旅行保険料
※集合場所までの交通費は参加料金に含まれておりません。

道の駅たかのの：集客増と客単価増により売上げ増加。農業経営・加工・着地型観光に意欲

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・売上げは上半期だけで2年前よりも1割増、前年度より3割増加。福山、岡山、四国からの来客が増加。島根からも増加。台湾を始め外国人観光客が増加
 - ・直売での売れ行きが好調のため、地域での農産物加工への意識が高まる
- ◆道の駅としての取り組み
 - ・目的地化されることによるリピーター客の増加と、回廊やテントによる対面販売の開始などで客単価が増加。売上げは加工品が半数強を占める
 - ・雇用は正社員とパートで41名、アルバイトが10名。約8割が地元（市内）雇用
 - ・出荷者は当初の180から倍増し、現在350程度。
 - ・地域の人々の交流の場となるよう、ビアガーデン、コンサート等のイベントを実施
- ◆今後の方向性
 - ・農家民泊や農業体験、着地型観光について、（一社）庄原市観光協会や地域団体と連携し、商品化を目指す
 - ・農業生産や農産物加工の担い手に、道の駅を運営する第三セクター（株）緑の村が関わっていくことが課題



道の駅で開催した地元住民向けのイベント

庄原シティホールライブ楽団 in そらら

2015年 6月19日(金)
時間 18:30～21:00
場所 カフェレストラン そらら
料金 ビュッフェ形式 お一人 4,800円 各種ワイン・生ビール等アルコール 3,500円 ソフトドリンク協賛

7年前、庄原市役所本庁玄関ホールで始まった「シティホールライブ」での演奏をきっかけに出会い、地元庄原を拠点に活動している楽団です。

道の駅世羅：産直市・観光施設・飲食店との連携で農業の高付加価値化による活性化をめざす

◆やまなみ街道全通の影響

- ・ H27.5中旬に開業し、5ヶ月間でレジ通過者が15万人を超えた
- ・ 観光バスの立ち寄りが多く、売上げへの貢献度は大きい
- ・ 町内の産直市は対前年比で2割増加、世羅高原農場の夏のひまわりまつりは9割増加

◆道の駅の取り組み

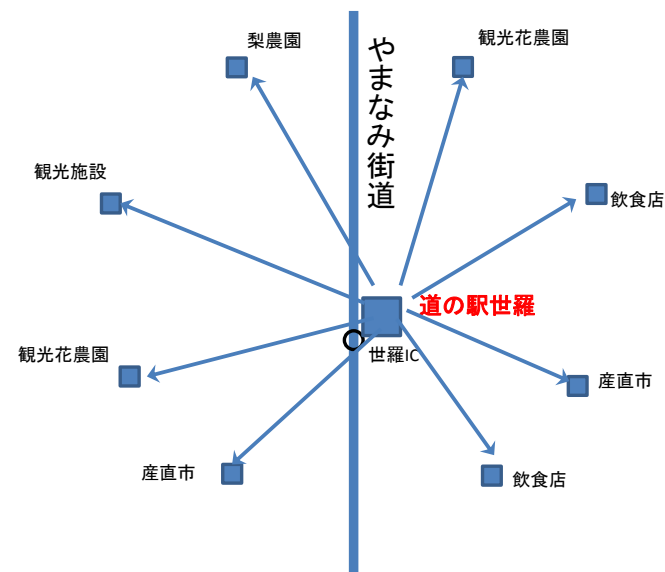
- ・ 観光協会が指定管理を行う。
- ・ コンセプトは情報発信基地であり、町内に産直市や観光農園が多いため、道の駅単独での売上げよりも、町全体での集客増と販売増加が目標。
- ・ 来訪者からのニーズに応えるため、農産物を揃えるようにしているが品数は多くない(30点/出荷者)。売り切れ時などは近隣の直売所を案内する
- ・ 出荷者は町内の事業者のみにするなど地元にごだわる。「世羅コーヒー」の開発等ブランド化にも取り組み、土日には店舗外にテントブースを設置
- ・ お客様ニーズに対応し、営業開始時間を早めに設定。近隣の道の駅と差別化
- ・ 町内の観光情報チラシは観光コンシェルジュが直接手渡しし、案内を行うなどお客様とのコミュニケーションを重視している

◆今後の方向性

- ・ 農産物の有無など他の産直市と効果的にネットワークする仕組みを構築することと、新たな商品開発とブランド化
- ・ 町内の飲食店と連携して団体バス向けのお弁当の受発注システムを構築
- ・ 閑散期は地元住民向けのイベントを開催（日本酒試飲会、アロマの展示販売会等）



町内の産直市、観光施設・飲食店への誘導を目的とする道の駅世羅



道の駅クロスロードみつぎ：目的地化を目指したリニューアルとやまなみ全通により売上げ増

◆やまなみ街道全通の影響

- ・ 松江道開通時にはバスの立ち寄りには少なかったが、観光バスの立ち寄りが増加
- ・ 山陽道尾道ICと三原久井IC間に並行するR486の交通量は増加しており、道の駅がサービスエリア的な役割を果たす
- ・ 売上げは増加しており、リニューアル効果とやまなみ街道開通効果が半々程度と認識
- ・ 観光面での問い合わせとしては、山陰の人による尾道やしまなみ海道に関する問い合わせが多い

◆道の駅の取り組み

- ・ 道の駅を管理するためにつくった民間会社が指定管理を受託、出荷者は180人、年間利用者は33万人
- ・ 平成27年にリニューアルし、レストランと野菜市を拡張。駐車場や女子トイレも増設、屋根付き2輪駐車を整備。約2億円で尾道市が整備
- ・ リニューアルは、目的地となることをめざしたものであり、レストランにブランド力のある「野の葡萄」を誘致

◆今後の方向性

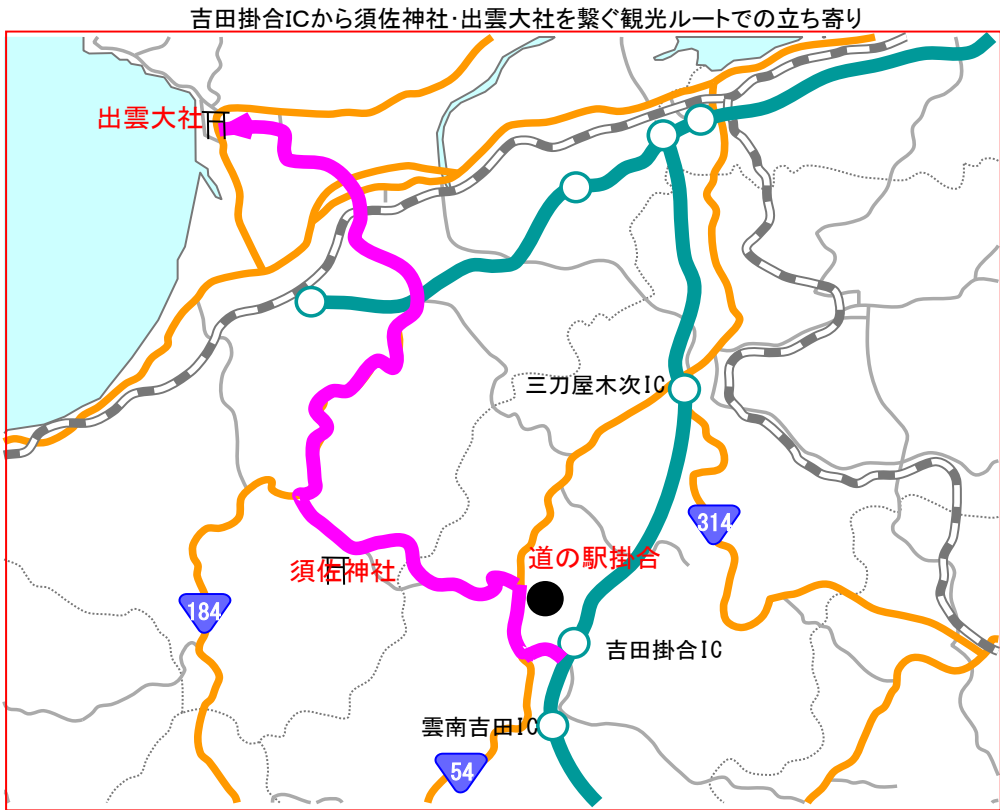
- ・ 加工品がリピータ確保に繋がると考えており、加工場の整備が課題

広いテラスは地域の人々の交流空間としても活用



道の駅掛合の里：一般道を利用した広域観光ルートでの立ち寄り地であり全通により1割増加

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・ 松江道開通により3割減、やまなみ街道開通により1割増加。吉田掛合ICから須佐神社、出雲大社を繋ぐ観光バスが立ち寄る
- ◆道の駅としての取り組み
 - ・ 民間運送会社が新規事業への参入という形で、レストラン・物販・緑地を指定管理。産直市や民間飲食業者による飲食店、トイレは別管理
 - ・ 食材は産直市から仕入れ、朝とれ食材をキャッチフレーズに、家族向けの飲食メニューを特徴。利用者層は近隣のビジネスマンやシニア層が多い
 - ・ コスト削減施策として、指定管理を受けているたたらば壱番地と一体的に人員の活用を行っている
- ◆今後の方向性
 - ・ 立ち寄り客の来訪を待つのではなく、地元客向けの飲食、仕出し、宴会などのニーズに応じていくことを基本とする
 - ・ 交通量減少に直面しており、地域の活性化につなげていくため、道の駅の経営に関わる他の主体と連携したいという意向

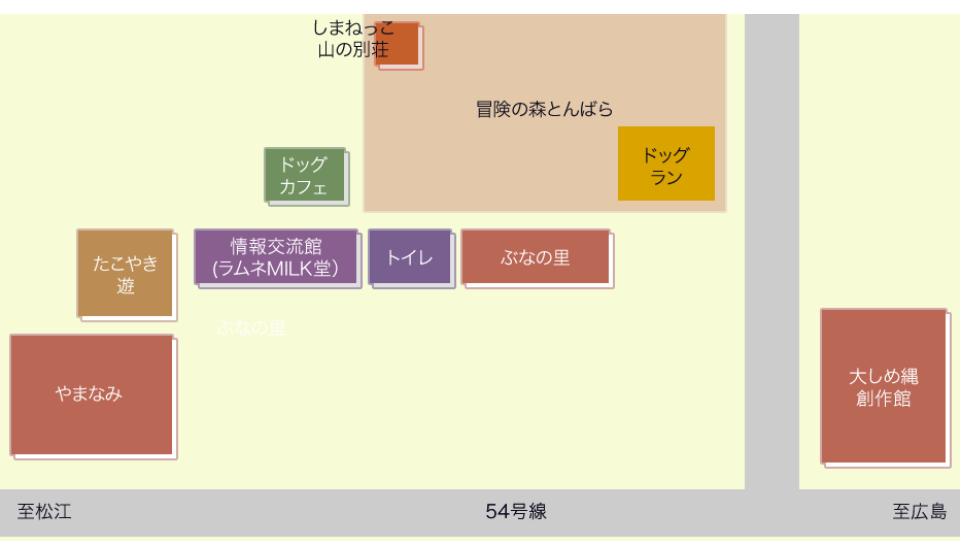


須佐神社：唯一須佐之男命の御魂を祀る神社で、祭神はほかに稲田比売命(いなたひめのみこと)、足摩槌命(あしなづちのみこと)、手摩槌命(てなづちのみこと)とヤマタノオロチ退治に登場する四神が祀られている。出雲の風土記にも登場し、日本一のパワースポットの場所として雑誌・テレビなどで紹介されている。

道の駅頓原：危機感を背景に個別運営主体が地域と連携し、機能強化とイベントを実施

- ◆やまなみ街道全通の影響
 - ・ 松江道開通時には売店部門が大幅減少したが、全通により全体としては1割強の増加。 レストラン・宴会部門は地元利用も多く、交通量減少の影響は緩和
- ◆道の駅としての取り組み
 - ・ 地元の建設業界が立ち上げた会社が道の駅を管理。産直市、トイレ管理、情報コーナーの運営主体は別々に運営されている
 - ・ 危機感を背景に、地域が主導し道の駅の各主体等も加わって「とんばらの里山で遊ぶ会」を組織し、冒険の森の整備、イベント等に取り組む。 行政も隣接地にしめ縄館を整備し、交流の拠点性を強化
- ◆今後の方向性
 - ・ 地元客に目を向けた集客イベントの実施、外部からの集客は目的地となるよう道の駅が一体として取り組む

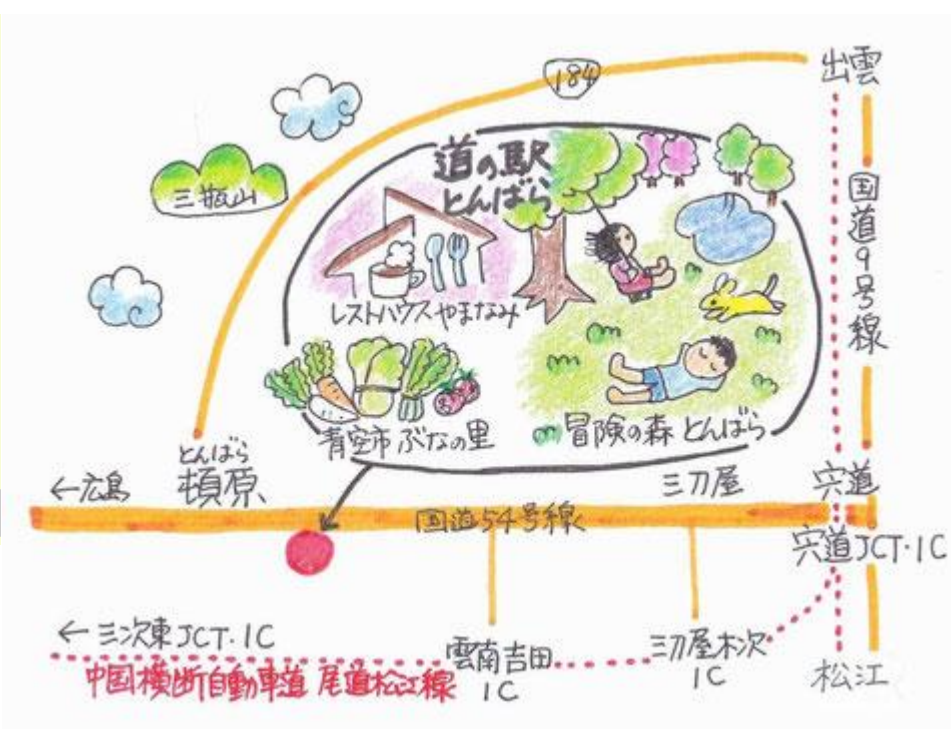
道の駅の各施設は個別に運営



とんばらの里山で遊ぶ会の組織化

道の駅の各主体(レストラン・宴会、産直市、情報交流館)
しめ縄館
地域(頓原公民館、花栗振興会(事務局))
飯南町役場
その他団体・住民

とんばらの里山で遊ぶ会が整備した冒険の森



道の駅ゆめランド布野:地産地消型の食事で観光周遊ルートに組み込み、宅配開始にも前向き

◆やまなみ街道全通の影響

- ・ 松江道開通により3割～4割減少したが、やまなみ全通により約1割増加。福山、四国方面が増加。石見銀山・三瓶山方面の観光バスが立ち寄る。
- ・ 三次ワイナリー・奥田元宋小由女美術館、ゆめランド布野で食事、君田温泉を繋ぐ周遊ルートができている

◆道の駅の取り組み

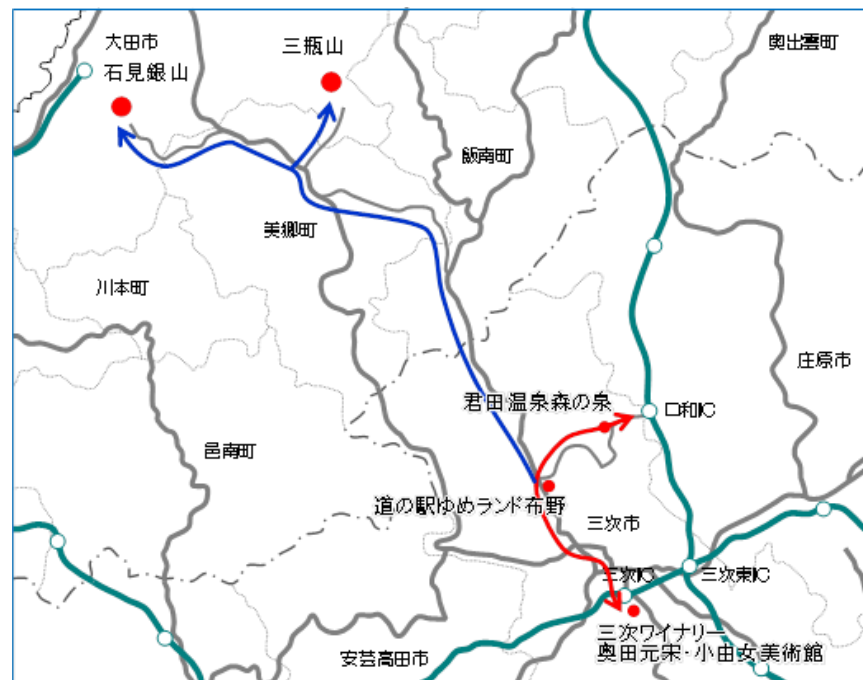
- ・ 旧布野村がつくった第3セクターが経営。設立当初別経営だった産直市を含め一体的に運営。産直市との有機的な連携、道の駅の目的地化を目指すし、地産地消型のバイキング料理を開始(H18年度)、リピーター客がつき、休日は1時間待ちとなる。お客は年配者が多い
- ・ 道の駅赤来高原と連携して、ライダーズフェスタ(国産・外国産のバイクの展示・試乗イベント)を開始。バイク600台、2000人が集結
- ・ 国土交通省が屋根付きバイクスタンドを整備

◆今後の方向性

- ・ 道の駅としてレンタサイクルを設置し(H28年度)、近隣のコースを自転車で周遊してもらう起点とする
- ・ 当該地域における高齢化に対応した地域向けのサービスとして宅配弁当サービスを実施



ゆめらんど布野への観光客の流れ



- 
- 今回ヒアリングを行った道の駅の中から、地域毎の特徴を生かした先進的な取組が発現中
 - 主なモデルは次の3類型。今後、沿線自治体等とも連携しながら、水平展開・進展を期待

6次産業化 推進モデル

- 道の駅を地域特産品の販売拠点と位置付け、品質の高い野菜・特産品を中心に地元農産品・加工品を打ち出す戦略
- バリューチェーン(生産・加工・販売・プロモーション)を地元生産者・加工業者と連携して構築
- 地域特産品を活かした農作物・加工品のブランド化により、地元農業の活性化を推進

地域送客 モデル

- やまなみ街道沿いの集客力を活かし、高速道路から降りた観光客を近隣の産直市・観光施設へ送り込むことで、道の駅単独ではなく、地域全体における経済性向上を志向
- コンセプトは、道の駅＝情報発信基地

地域密着 サービス モデル

- (やまなみ街道沿いから外れる)立地条件の不利を、地域密着型のサービス提供(地域食材を活かしたバイキング、地域高齢者向けの食事宅配サービス等)に特化、差別化することで、松江道開通後に一旦落ち込んだ収益性を改善